

古平町:地域の人口・産業の概況、水産業の概況、タラコ加工を主体とした水産加工業協同組合の経営破たんに関する内容と地域の雇用や経済的影響、都市漁村交流の状況などについて報告いただいた。

積丹町:地域の人口・産業の概況、水産業の概況、漁業振興の取り組み(企業との連携「JTの森積丹」、「余別・海 HUGくみたい」)の紹介、漁業振興上の課題や権後の漁業振興対策などについてご報告いただいた。

神恵内村:磯焼けの状況、神恵内村藻場∞LAND プロジェクト事業の内容、ウニ食害防止フェンスの設置とその効果、藻場 LAND 造成とその効果などについてご報告いただいた。

① 質問など(主なもの)

古平町

Q: タラコ加工業の経営破たんによる町への影響について

A: 古平町のタラコ加工業者が経営不振になった経緯については、元々、明太子の原料として前浜の塩タラコを販売してきたが、S40年代から輸入原料(冷凍)を使うようになり現在は100%輸入となっている。H17に高い原料の在庫を抱えて、その在庫の影響と製品販売の低迷が続いた。いきなり経営破たんのニュースが報道されたが、加工協との情報共有がうまくいかず、町として打つ手がなかった。離職者数が129人で約8割(94人)は女性就業者(主に漁家以外)でほとんどが季節雇用の人だったが、再就職できた人は約半数である。

Q: 破たん後の町としての対策について

A: 自己破産した6社のうち2社が再建を目指していることもあり、がんばろう!ふるびら特別対策事業(古平町水産加工業危機突破対策事業)を推進し、雇用、企業立地、域内経済循環、水産加工業の再建などに対する支援を行っている

積丹町

Q: JTとの連携のきっかけは?また他の企業との連携は?

A: 道庁を通して応募の要請があり積丹町が採択された。

Q: 6次産業化のような事例はあるか?

A: 米国では札幌の団体から食育に関する事業も問い合わせはいただいているがま

だ具体的ではない。

Q: 積丹半島地域が一体となって、ウニのPRなど六次産業化に向けた取り組みを行う可能性はないのか

A: 漁業者が自らやるのは仕事が忙しいので難しいが、最近、観光と漁業の連携が始まってきたところである。

他からの意見として、NPO 法人や学生などの力を借りることもできるのではないか。最近では物技(ぶつわざ)交換といってお金ではなく、モノや技を双方が提供して連携する動きもでてきている。

神恵内村

Q: 協力する企業をどのように募ったのか

A: 村長の発案で、以前から付き合いのあったコンサルタント会社に依頼をした。

② ディスカッション

○最近、ふるさと納税が地域経済活性化のしくみの一つとして各地で活発化し、地域の特産物など提供する動きも多いが、3 地域の現状はどうか。安倍政権の推進施策なので取り組んではどうか。

- ・水産加工品を提供することを今後考えている(古平町)
- ・今のところ制度はなく今後の課題(積丹町)
- ・制度はあるが、特産品の提供などのサービスはない(神恵内村)

○水産加工業の振興策について

- ・積丹町に加工業はなく、神恵内村では小規模な加工場が細々と行っている
- ・水揚げが短期間に集中するので、工場の稼働率を上げ雇用を維持するため、輸入原料に移行したという経緯がある
- ・女性就業者は高齢の方が多く残業が難しく、外国人労働者は地元で消費活動をほとんどしないので、できれば地域の人に働いてもらうのが地域の経済循環のためには良い方法である

○観光振興について

- ・積丹半島の観光協議会が温泉のスタンプラリーを始めている

○地域外の人たちへの期待とできること

- コーディネーター的な役割を果たす人が必要で、古平では NPO 法人古平マリンプ
プロジェクトを立ち上げたが、通常の仕事をしながらなので考えたほど動けない
- 神恵内村では、北星学園の学生ボランティアが祭りの手伝いに来ている。神恵内
村魅力向上委員会を組織し、FB の立ち上げや道の駅での物販を始めた。ニセコ
や余市の人の流れを積丹半島まで回せるような取り組みが今後考えられる
- 積丹町にはウニ種苗センターがあったが、施設の老朽化もあり H19 から休止してい
るので、その活用などについて外部のアドバイスがあれば。
- 外部の人が協力できるメニューがわかれば、それに対応したり情報発信など NPO
として協力することもできるが・・・古平町のヒメマス養殖の PR 等はお願したい
- 漁協が中間支援組織の役割を果たしているところは成功している地域が多い。地
域にそのような人材はいるか？・・・特に人材が不足しており地元だけでは難しい。
漁師個人の努力で成功している例はある。
- 観光に関しては、北海道観光振興機構や総合振興局などとの連携が考えられる

○その他

- 基本的に資源量を増やすことを考えたほうがいい。生産管理や品質管理の取り組
みにも力を入れる必要がある
- 地域から今以上に情報を発信して、地域外の人にも情報が伝わるようにしてはどう
か
- 地域資源を活用して、半島地域全体で交流人口を増やす取り組みができる。札幌
から近く立地条件的には良いところだと思う
- 北海道開発局ではマリンビジョン関連で百貨店と連携実績がある。プロの意見を聞
くことも参考になるのではないかな。